

分子イメージング先端研究センター ヒトイメージング研究部門

1 構 成 員

	平成20年3月31日現在
教授	1人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助教（うち病院籍）	0人（人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	1人（1人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人（訪問研究員）
合 計	3人

2 教員の異動状況

尾内 康臣（教授）（H19. 11. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成19年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編（0編）
そのインパクトファクターの合計	17.95
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Ouchi Y, Nakayama T, Kanno T, Yoshikawa E, Shinke T, Torizuka T. In vivo presynaptic and postsynaptic striatal dopamine functions in idiopathic normal pressure hydrocephalus. J Cereb Blood Flow Metab 27:803-810, 2007

インパクトファクターの小計 [4.84]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Kono S, Shirakawa K, Ouchi Y, Sakamoto M, Ida H, Sugiura T, Tomiyama H, Suzuki H, Takahashi Y, Miyajima H, Hattori N, Mizuno Y. Dopaminergic neuronal dysfunction associated with parkinsonism in both a Gaucher disease patient and a carrier. J Neurol Sci 252:181-4, 2007
2. Nishimura K, Nakamura K, Anitha A, Yamada K, Tsujii M, Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Takei N, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya K, Sugihara G, Suda S, Ouchi Y, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N. Genetic analyses of the brain-derived neurotrophic factor (BDNF) gene in autism. Biochem Biophys Res Commun 356:200-6, 2007
3. Toyoda T, Nakamura K, Yamada K, Thanseem I, Anitha A, Suda S, Tsujii M, Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya K, Sugihara G, Ouchi Y, Sugiyama T, Takei N, Yoshikawa T, SNP analyses of growth factor genes EGF, TGFbeta-1, and HGF reveal haplotypic association of EGF with autism. Biochem Biophys Res Commun 360:715-20, 2007

インパクトファクターの小計 [8.12]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Nakayama T, Ouchi Y, Yoshikawa E, Sugihara G, Torizuka T, Tanaka K. Striatal D2 receptor availability after shunting in idiopathic normal pressure hydrocephalus. J Nucl Med 48: 1981-1986, 2007

インパクトファクターの小計 [4.99]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾内康臣：PET，アルツハイマー病，日本臨床 282-287, 2008

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成19年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成19年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (1,790万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (1,310万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

中村和彦 (代表者) 基盤研究B 脳画像法と分子生物学的手法による高機能自閉症の病態発生に関する研究 1460万円 (継続)

杉原玄一 (代表者) 基盤研究C 自閉症障害の病態発生メカニズムに対する神経炎症の関与 - PETとMRSによる検討 330万円 (継続)

(2) 厚生科学研究費

伊藤健吾 (代表者) 長寿科学総合研究事業 MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究 (1310万円)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	2件	2件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	2件	

(1) 国際学会等開催・参加

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Ouchi Y.: The role of inflammation in Parkinson's disease. 5th Takamatsu international Parkinson's disease symposium, Takamatsu (Japan). 2007 April

Ouchi Y.: A Parkinson's disease-like gait disorder. 12th Mind-Brain symposium, Hamamatsu (Japan). 2008 February

5) 一般発表

ポスター発表

Ouchi Y., Nakayama T, Kanno T, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Tanizaki T, Sugihara G, Torizuka T. DOPAMINERGIC FUNCTIONS IN IDIOPATHIC NORMAL PRESSURE

HYDROCEPHALUS. Brain07, 2007 May, Osaka (Japan)

Ouchi Y, Nakayama T, Kanno T, Yoshikawa E, Futatsubashi M, Tanizaki T, Sugihara G, Torizuka T. Changes in D2 receptor binding after shunt surgery in idiopathic normal pressure hydrocephalus. 13th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping, 2007 June, Chicago (USA)

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

尾内康臣. PETでわかる脳の危険信号 第17回放射線利用総合シンポジウム 平成20年 1月
大阪

尾内康臣. Dopaminergic impairment and neuroinflammation in Parkinson's disease.
第81日本薬理学会 平成20年 3月 (横浜)

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成19年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	2件

(2) 国内共同研究

伊藤健吾 (国立長寿医療センター) MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究

(3) 学内共同研究

森則夫 (精神科) 自閉症の脳病態研究

難波宏樹 (脳外科) くも膜下出血後の脳病態研究

10 産学共同研究

	平成19年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. MCIを対象とするアルツハイマー病の早期診断に関する多施設共同研究

厳密に診断したMCI (mild cognitive impairment) 患者114名に対し, PETとMRI, 神経心理検

査をフォローした。FDG-PET上のアルツハイマー病パターンとMRI上の海馬傍回の萎縮は約70%の症例で認められた。PETとMRIデータと記憶データなど神経心理データとの間で有意な相関が示された。このMRIコホートは1年目の追跡がされた段階であり、本研究の3年間追跡にはあと2年を要する。この追跡調査を完遂することでアルツハイマー病の早期診断法を確立し、早期治療介入の開始時期の選択、治療効果判定への応用が可能である。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 週刊文春：医療テクノロジー技術最前線 小さながんや神経細胞の変化を早期にとらえるPET
2007年7月